萬葉集略解 八

和書門
類
四三三〇九
號
一三七
函
八
架
三二
册

内閣文庫
和書
類
四三三・九
號
三二
册
二六三
函
一三
架

内閣文庫
番號 和 43309
册數 32 (12)
函號 263 40

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

萬葉集卷第八

春雜歌

志貴皇子懽御歌一首○鏡王女歌一首○駿河采女歌一首○尾張連歌二首名闕○中納言阿倍廣庭卿歌一首○山部宿禰赤人歌四首○草香山歌一首○櫻花歌一首并短歌○山部宿禰赤人歌一首○大伴坂上郎女柳歌二首○大伴宿禰三林梅歌一首林ハ依の誤ラ○厚見王歌一首今本厚を原る誤○大伴宿禰村上梅歌二首村を材ヨ誤○大伴宿禰駿河麻呂歌一首○中臣朝臣武良自歌一首○河邊朝臣東人歌一首○大伴宿禰家持鶯歌一首○大藏少輔丹比屋主真人歌一首○丹比真人乙麻呂哥一首屋主真人第二之子也○高田女王歌一首高安之女也 此安の下王の字と為せりの文脚なるら○大

淺草文庫

伴坂上郎女歌一首○大伴宿祢家持春鴈歌一首○大伴坂上郎女歌一首

春相聞

大伴宿祢家持贈坂上家之大嬢歌一首○大伴田村家毛大嬢與妹坂上大嬢歌一首毛公之の誤り○大伴宿祢坂上郎女歌一首宿祢の下家持贈の三字落ちしか○笠女郎贈大伴家持歌一首○紀女郎歌一首名曰小鹿

天平五年癸酉

春閏三月笠朝臣金村贈入唐使歌一首并短歌○藤原朝臣廣嗣櫻花贈娘子歌一首娘子和歌一首○厚見王贈久米女郎歌一首　久米女郎報贈歌一首○紀女郎贈大伴宿祢家持歌二首　大伴家持贈和歌二首○大伴

家持贈坂上大嬢歌一首

夏雜歌

藤原夫人歌一首○志貴皇子御歌一首○弓削皇子御歌一首○小治田廣瀬王霍公鳥歌一首○沙彌霍公鳥歌一首ゲ孫上三方の字と落ちしか○刀理宣令歌一首○山部宿禰赤人歌一首○式部大輔石上堅魚朝臣歌一首　太宰帥大伴卿和歌一首○大伴坂上郎女思筑紫大城山歌一首○大伴坂上郎女霍公鳥歌一首○小治田朝臣廣耳歌一首○大伴家持霍公鳥歌一首○同家持橘歌一首○同家持晩蟬歌一首○大伴書持歌二首○大伴清繩歌一首○庵君諸立歌一首○大伴坂上郎女歌一首○大伴家持唐棣花歌一首○同家持恨霍公鳥晩喧歌二首

○同家持懽霍公鳥歌一首○同家持惜橘花歌一首○同家持霍公鳥歌一首○同家持雨日聞霍公鳥喧歌一首○橘歌一首遊行女婦○大伴村上橘歌一首○大伴家持霍公鳥歌二首○同家持石竹花歌一首○惜不登筑波山歌一首惜ハ恨の誤ヘ

夏相聞

大伴坂上郎女歌一首○大伴四繩宴吟歌一首○大伴坂上郎女歌一首○小治田朝臣廣耳歌一首○大伴坂上郎女歌一首○紀朝臣豐河歌一首○高安歌一首○大神女郎贈大伴家持歌一首○大伴田村大嬢與妹坂上大嬢歌一首○大伴家持攀橘花贈坂上大嬢歌一首

并短歌○同家持贈紀女郎歌一首

秋雜歌

岡本天皇御製哥一首○大津皇子御歌一首○穗積皇子御歌二首今一首ハ子部王作ヘ○但馬皇子御歌一首一云子部王作ハ子の誤ヘ○山部王惜秋葉歌一首○長屋王歌一首○山上憶良七夕歌十二首○太宰諸卿大夫并官人等宴筑前國蘆城驛家歌二首○笠朝臣金村伊香山作歌二首并ヘ○石川朝臣老夫歌一首○藤原宇合卿歌一首○持ヘ誤ヘ緣達師歌師ハ文ヘ師ヘ化ヘ○山上臣憶良詠秋野花歌二首○天皇御製歌二首○太宰帥大伴卿歌二首○三原王歌一首○湯原王七夕歌二首○市原王七夕歌一首○藤原公東歌一首ハ文氏の不朝臣のまま○大伴坂上郎女晩芽子歌一首○典鑄正紀朝臣鹿人至衛門大尉大伴宿祢稲公跡見庄

作歌一首○湯原王鳴鹿歌一首○市原王歌一首○湯
原王蟋蟀歌一首○衛門大尉大伴宿祢稲公歌一首
大伴家持和歌一首○安貴王歌一首○忌部首黒麻呂歌
一首○故郷豐浦寺之尼私房宴歌三首○大伴坂上郎女
跡見田庄作歌二首○巫部麻蘇娘女鴈歌一首 大伴
家持和歌一首○日置長枝娘子歌一首○大伴家持和
歌一首○同家持秋歌四首○藤原朝臣八束歌二首○
大伴家持白露歌一首○大伴利上歌一首 利村の誤ヵ ○右大
臣橘家宴歌七首○橘宿祢奈良麻呂結集宴歌十一首 作
者十人 旬又九と麻呂ヨリ他 ○大伴坂上郎女竹田庄作歌二首○佛前
唱歌一首○大伴宿祢像見歌一首○大伴宿祢家持到
娘子門作歌一首○同家持秋歌三首○内舎人石川朝

臣廣成歌二首○大伴宿祢家持鹿鳴歌二首○大原真
人今城傷惜寧樂故郷歌一首○大伴宿祢家持歌一首
秋相聞
額田王思近江天皇作歌一首 鏡王女作歌一首○弓
削皇子御歌一首 ヒトツ 王ヨリ出 ○丹比真人歌一首 名闕 ○丹生
女王贈太宰帥大伴卿歌一首○笠縫女王歌一首 六人部親
王之女母曰田形皇女 ○石川賀係女郎歌一首○賀茂女王歌一
首 女王ヨリ長屋王之女母曰阿倍朝臣也ト云 ○遠江守櫻井王奉天皇歌一首
天皇賜報和御歌一首○笠女郎贈大伴宿祢家持歌一
首○山口女王賜大伴宿祢家持歌一首○湯原王贈娘
子歌一首○大伴家持至姑坂上郎女竹田庄作歌一首
大伴坂上郎女和歌一首○巫部麻蘇娘子歌一首○大伴

田村大嬢與妹坂上大嬢歌二首（大村と云ふ）○坂上大娘秋稲
蔓贈大伴宿祢家持歌一首　大伴宿祢家持報贈歌一
首○又報脱著身衣贈家持歌一首（大伴宿祢家
持攀非時藤花并芽子黄葉三物贈坂上大嬢歌二首
同家持贈坂上大嬢歌一首并短歌○同家持贈安倍女
郎秋歌一首○同家持從久邇京贈留寧樂宅坂上大嬢
歌一首○或者贈巨歌二首　尼作頭句并大伴宿祢家
持所誂尼續末句和一首（右文和上等字多和下歌字あり）

冬雜歌

舍人娘子雪歌一首○太上天皇御製歌一首○天皇御製歌
一首○太宰帥大伴卿冬日見雪憶京歌一首○同卿梅
歌一首○角朝臣廣辯雪梅歌一首（辯右文辨ノ化）○安倍朝臣奥

道雪歌一首○若櫻部朝臣君足雪歌一首○三野連石
守梅歌一首○巨勢朝臣宿奈麻呂雪歌一首○小治田
朝臣東麻呂雪歌一首○忌部首黒麻呂雪歌一首○紀
少鹿女郎梅歌一首○大伴宿祢家持雪梅歌一首○御
在西池邊肆宴歌一首○大伴坂上郎女歌一首○池田
廣津娘子梅歌一首○縣犬養娘子依梅發思哥一首○
大伴坂上郎女雪歌一首

冬相聞

三國真人人足歌一首○大伴坂上郎女歌一首　和歌
一首○藤原后奉　天皇御歌一首○池田廣津娘子歌
一首○大伴宿祢駿河麻呂歌一首○紀少鹿女郎歌一
首○大伴田村大嬢與妹坂上大娘歌一首○大伴宿祢

家持歌一首

春雜歌

志貴皇子懽御歌一首　天智天皇の皇子、田原天皇と謚奉れり

石激垂見之上乃左和良妣乃毛要出春爾成来鴨

いそぐしる垂水の上のさわらびの　もえいづるはるになりにけるかも

いそぐしる垂水は摂津國豊島郡神名帳豊島郡垂水神社あり巻

七巻十二にもいそぐしるたるみのゆとよめり御懽はいつれの御代

此皇子は天智天皇の御子にまします元年より百戸封ぜられ和銅七年ふ

二百戸、嘉亀元年より一品と定められしかるに此の時の御歌なる也此地名とよく

みるは封戸摂津にあるも有るべし、されども遠く地名とおもはるけ

よりもたるべはなるべし

鏡王女歌　天武紀十二年秋七月天皇鏡姫王の家に幸病と訊みまふる

平為黒ハ千鳥里ノ誤カ

神奈備乃伊波瀬乃杜之喚子鳥痛莫鳴吾戀益
かみなびのいはせのもりのよびこどりいたくなきそわがこひまさる
いはせ大和なる所名也字注ハ杜毛利と
駿河采女歌一首
沫雪香薄太禮爾零登見左右二流倍散波何物花其毛
あわゆきかはだれにふるとみるまでにながるへちるはなにかもあらむ
はるのゝのゝ注べし、ちるへちるはなれるとも、雪ちりぬる
る多中べる桜ゝ歌なるべしゝ、又る行のうれゆ時ゝ流
ゝゝあゝ、物の不一本之のるゝ
尾張連歌二首　名闕
春山之開乃乎為黒爾春菜採妹之白紐見九四與四門
はるやまのさきのたをゝしわかなつむいもがしらひもみらくしよしも

万解八　六

為の乃乎為黒ハ千鳥里の誤ゝ也ゝ花咲年速里と書ゝ同じ所ゝ
さかりに成ゝ年ゝ速ゝ里ゝ宣ゝ千鳥里の誤ゝ也ゝ荒ハ崎の傍
字ゝ注ゝ也ゝ字注ゝ也ゝ堺曲岸也久万又大平里、嶼山豊良山乃弥祢太
乎利、又井大乎利ゝ也ゝ
れハ、宣ゝ也ゝ説ゝ後ゝ上ゝ
打靡春来良之山際遠木末乃開往見者
うちなびくはるきたるらしやまのまとをこすえのさきぬるゝをみれば
うちなびくはるきたるらしやまのまとをこすえのさきぬるゝをみれば
中納言阿倍廣庭卿歌一首
去年春伊許自而植之吾屋外之若樹梅者花咲爾家里
こぞのはるいこじてうゑしわがやどのわかきのうめハはなさきにけり
伊ハ爰後、こゞハ根こゞ、こゞ振動ゝ、古ゝ記天香山之立百津真賢

木乃根許士尓許士布こゝそ
山部宿禰赤人歌四首
春野尓須美礼採尓等来師吾曽野乎奈都可之美一夜宿
二来
はるのゝにすみれつみにとこしわれぞのをなつかしみひとよねにける
菫つむハ衣摺ん料なるべし。和名抄菫菜俗謂之菫葵須美礼。こゝろはのゝなつかしきにと
ねもせで、ゆふぐれてみたるなる之
足比奇乃山櫻花日並而如是開有者甚戀目夜裳
あしびきのやまさくらばなひならべてかくさきたらばいたくこひめやも
常に見て知るなるべしいくかもとくと、花は数ていふ之
吾勢子尓令見常念之梅花其十方不所見雪乃零有者
わがせこにみせんとおもひしうめのはなそれともみえずゆきのふれゝば

標ヲ摽ニ誤

わがせこハ友とみ
從明日者春菜将採跡摽之野尓昨日毛今日毛雪波布利
管
あすよりはわかなつまんとしめしのにきのふもけふもゆきはふりつゝ
あすよりハ此のなるあたりて以まなるゆへ
草香山歌一首 古事記雄略天皇久佐加弁の山とも(河内国河内郡之)
忍照難波乎過而打靡草香乃山乎暮晩尓
おしてるなにはをすぎてうちなびくくさかのやまをゆふぐれに
吾越来者山毛世尓咲有馬酔木乃不悪君乎
わがこえくればやまもせにさけるあしびのにくからぬきみを
何時往而早将見
いつかゆきてはやみむ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右一首依作者微不顕名字

櫻花歌一首并短歌

嬾嬬等之挿頭乃多宋爾遊士之纐之多宋等敷座流國乃
[illegible]
波多氐爾開爾鶏類櫻花能丹穂日波毋安奈何
はるてふときはふけるさくらのはるのありひいもあなふ
遊士やひとへ川べきすがるいろ白あるなるこしたる
てハたてしつるはるくくハ度く国の花みといもてちゆ、ちるひにおそや

何一本作

挿頭今挿頭二誤

の表紙都波多傳まく志毘賀波多傳ふつまとてうこゆ、武とてとハ矢なる
べし、何一本ハ何ハ待の誤ちなるハ紀ハ妍哉とあるなるまやとなるなるハ、ほ矢いてるなる、
宝ものハ何ハ待の誤ちなるハ紀ハ妍哉とあるなるまやとなるなるハ、ほ矢いてるなる、

反謌

去年之春相有之君爾戀爾手師櫻花者迎来良之毋
こぞのなるあかりきみよこいあてしさくらのなるハいもの〳〵しも
去年様とあで〳〵人を恋し来て武まそ〳〵人と迎てんとそてくそ恋の時さ
るちるあ〳〵櫻のハをたてとあるう、宝ものハたの考あハ枝句ふて、を山と
人の越行るのをいかるべしさて武反あるる迎しハよるる人物〳〵ざれハ迎〳〵
りてくよりちてハ、きてくべし

右二首若宮年魚麻呂誦之

山部宿禰赤人歌一首

あゆるをの古ちとをくへし

百濟野乃芽古枝爾待春跡居之鶯鳴爾鶏鵡鴨

くさ〻ぬのたきのふるえよたるまつと　ふる〻ゆきのしらぬひにてなきよけんのも

くさ〻ぬ大和十市郡　ふる雪の消の字よりよめる

大伴坂上郎女柳歌二首

吾背兒我見良年佐保道乃青柳乎手折而谷蔵見緑欲得

わのせこがみらんさほぢのあをやぎをたをりてたにかくしみどりよりもがも

くさんはるもえ　緑欲得いろもとのこゝ以れど十字ふかつるやく緑ハ

緑の色ろるべし　るまるよ字がくゝ　やあてせこが色しの柳とぞ

みどりよりもあれ〳〵わがるく

打上佐保能河原之青柳者今者春部登成爾鶏類鴨

うちのぼるさほのかわらのあをやぎハいまハちるべとなりにけるかも

ちのぐる柳ね　そハ古字よりちゝ　ようるかるべ

大伴宿禰三林梅歌一首　林ハ依の誤ル、三依ハ阪也

霜雪毛未過者不思爾春日里爾梅花見都

しもゆきもいまるもぎねばおもハぬにかすがのさとにうめのはなみつ

るねばそるあみ　いまるもぎねばおもハぬ例ス

厚見王歌一首

河津鳴甘南備河爾陰所見今哉開良武山振乃花

かはづなくかんなびがわにかげみえていまやさくらむやまぶきのはな

かはづなく川　略也

大伴宿禰村上梅歌二首　後紀宝亀三年四月従立位下阿波守従五位下

含有常言之梅我枝今旦零四沫雪二相而將開可聞

ふくめるといひしうめのえけさふりしあとゆきあへてさきぬらんかも

ふくめるつぼみ

霞立春日之里梅花山下風爾落許須莫湯目

かすみたつはるのさとのうめのはなやまのしたかぜにちりてこもらん

[illegible]

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

霞立春日里之梅花波奈爾將問常吾念奈久爾

かすみたつはるのさとのうめのはなはなにとはんとわがもはなくに

[illegible]

あをによしなるはしるしてきみがいませるなどーこの花のーーーーーー

中臣朝臣武良自歌一首

時者今者春爾成跡三雪零遠山邊爾霞多奈婢久

[illegible]

河邊朝臣東人歌一首

春雨乃敷布零爾高圓山能攫者何如有良武

[illegible]

大伴宿禰家持鶯歌一首

打霧之雪者零乍然為我二吾宅乃苑爾鶯鳴裳

うちきりのゆきはふりつつしかすがにわがやどのそのにうぐひなきつも

[illegible]

和企弊、まき和我覇、あれば、わがくへ、わがくへと、[illegible]

大蔵少輔丹比屋主真人歌一首

難波邊爾人之行禮波後居而春菜採兒乎見之悲也

なにはべに人のゆけれバおくれゐてわかなつむこをみるがかなしさ

人ハ夫の事ぞ夫とゆふべし、ゆけれバゆけるといふことにて夫ニ別て後ひとり若菜つみゐるをみて帰れむ也ハ後ニ見送るといふことに例多

丹比真人乙麻呂歌一首　目録ニ屋主真人第二之子也とあり続紀天平神護元年正六位上多治真人乙麻呂授従五位下とみゆ

霞立野上乃方爾行之可波鶯鳴都春爾成良思

かすみたつのゝへのかたにゆきしかバうぐひすなきつはるになるらし

野のへハいづくにもあれ野の上を比名とあらそ

髙田女王歌一首　高安之女也　此頃一首なし

山振之咲有野邊乃都保須美禮此春之雨爾盛奈里鶏利

やまぶきのさきたるのべのつぼすみれこのはるのあめにさかりなりけり

もとられハ合ひくるやゝあるあれバつぼすみれといふなるべし

大伴坂上郎女歌一首

風交雪者雖零實爾不成吾宅之梅乎花爾令落莫

かぜまじりゆきハふるともみにならぬわぎへのうめをはなにちらすな

二の句より結句へつゞく詞句の如くたゞみるときハあだなるをいふ

あまりにいたくふりてみならぬ男を人といひさらぐすなれといふ例多きまゝにたゞ

梅をハあたらしくて持ちて見るべき

大伴宿禰家持養鶊歌一首　目録ニ養を春ニ作るとよしとし

春野爾安佐留鶊乃妻戀爾已我當乎人爾令知管

はるのゝにあさるきゞしのつまごひにおのがあたりをひとにしれつゝ

きゞしハ妻をこひてなくゆゑにおのがすみかを人にしらしむるといふ也

[illegible]

[illegible]

大伴坂上郎女歌一首

尋常聞者苦寸喚子鳥音奈都炊時庭成奴

よのつねきくはくるしきよどりかこなつのきときるはなりぬ

[illegible]

右一首天平四年三月一日依保宅作　郎女の父大伴安麻呂

[illegible]

春相聞

大伴宿禰家持贈坂上家之大嬢歌一首

吾屋外爾蒔之瞿麥何時毛花爾咲奈武名蘇經乍見武

之ヲ今モ誤

わがやどにまきしなでしこいつしかもさきなむなそへつつみむ

[illegible]

大伴田村家之大嬢與妹坂上大嬢歌一首

茅花抜淺茅之原乃都保須美禮今盛有吾戀苦波

つばなぬくあさぢのつぼすみれいまはのさかりわがこふるは

上ハ笠やしいそん序のゝ姉妹あるよとて

大伴宿禰坂上郎女歌一首　郎女はかくかたれとも伝来未詳

[illegible]

情具伎物爾曾有雜類春霞多奈引時爾戀乃繁者

こころぐきものにぞありける春かすみたなびくときにこひのしげきは

[illegible]

笠女郎贈大伴家持歌一首

水鳥之鴨乃羽色乃春山乃於保束無毛所念可聞

みづとりのかものはいろの春山のおぼつかなくもおもほゆるかも

二月の白ハ春山の係るといふん料まく、春山ハおぼつかなくといふへ存ず

半一出ある歌ともされど山と春と入てしかぞといふるめく、春山と春き

るよりしられべく山の節ともおぼつかなきとおぼつかなきこゝ成ハ春山の春

おぼつかなきなるべし、半サは水鳥乃可毛能羽能伊呂乃とあり

紀女郎歌一首　古本は廣人大夫女、名曰小鹿、安貴王之妻也とあり

闇夜有者宇倍毛不来座梅花開月夜爾伊而麻左自常屋

やみなるばうべもきませぬばたまのさけるつきよにいでまさじとや

いでまさじとやハ、まきもくとやハ耐ずの係るの

天平五年癸酉春閏三月笠朝臣金村贈入唐使歌一首

引ハ取、漢往ハ待ノ係

并短歌　後紀天平四年八月ハ後四位下多治比真人廣成為遣唐大使従五位下中臣朝臣名代為副使とあり

玉手次　不懸時無　氣緒爾　吾念公者虚蟬之

たまだすきかけぬときなくいきのをにわがもふきみはうつせみの

命　恐　夕去者鶴之妻喚　難波方　三津埼従

みことかしこみゆふされば鶴の妻喚　難波方　三津埼従

大船爾　二梶繁貫　白浪乃　高荒海乎　島傳

おほふねにまかぢしぬき白なみの高荒海を島傳

伊別往者　留有　吾者幣引　齊乍　公乎者将往

いさこのれゆくは留有われは幣引　齊乍　公乎者将往

早還萬世

はやかへりませ

まさるとき枕詞、いきのをハ命の、かぎりをいひつゞけ、半丸世なる人と成事ハかたき
をとし、虚蝉乃代人有者、大王之御命恐美、まことできのむなを、虚蝉
乃世人有者、大王之御命恐弥とあるく、こともこの例よ依よ、命の字世
の人なれバ大きみのといふ二句移しなるべし、次件ガいつるぞ、よく、ま梶
ハ舟のたちよ云る梶をいふよ、伊別の伊ハ發語、別ハ本の字の誤なるべし、
齋ハ齋とある用よ、往ハ待の誤なるべし

反歌

波上従所見児島之雲隠穴氣衝之相別去者

なみのへゆみゆるこじまのくもがくれあないきづかしあひわかれなバ

次句の雲ハ穴前く、半十一仮名よて、しゆる小路の次久本とし、又さく後句を初
句の上へめぐらしてみるべし、おもて見ハ波のよう見ゆる児路をむすえつなぐ
さまんみ、そこをさへ雲隠て、あとを歎きをるよしとあるべし、めいつく、あひみ

あひしと訓れども、さてハにきづつかんといふて、かれハおそと訓る

玉切命向戀従者公之三舶乃梶柄母我

たまきはるいのちにむかひこひゆはきみがみふねのかぢからにもが

むきざる枕詞、おし反よ死なるものを恋んよりハ、君が舟の梶ともなるんを欲之
梶柄ハ檝の握る所をいふなるべし、ガハもといふよ同じく、願ふ詞也、三ハ借字よ
みく御く

藤原朝臣廣嗣櫻花贈娘子歌一首　式部卿宇合の第一子也

此花乃一與能内爾百種乃言曽隠有於保呂可爾為莫

このはなのひとよのうちにもゝくさのことぞこもれるおほろかにすな

まこみよしめの山桜をハそしきこのもちのみをとをもちて、かよそくとよのある
如く、此櫻の花よ種々の言をこめあれバ、おろそかなるおもひそとよ、一よハ
一花のことにして、一瓣のことをかくいふなるべし

娘子和歌一首

此花乃一與能裏波百種乃言持不勝而所折家良受也

このはなの一よのうちはもゝくさの言もちかねてをられたらまし

右一首の中に後の人とあれば注なしてこれを後のよわらはしまつるべしやとも

厚見王贈久米女郎歌一首

屋戸在櫻花者今毛香聞松風疾地爾落良武

やどにあるさくらのはなはいまもかもまつかぜはやみつちにおちらむ

やどにはなどゝあれども次の歌と合せて小注の上句と注せるか

久米女郎報贈歌一首

世間毛常爾師不有者屋戸爾有櫻花乃不所比日可聞

よのなかもつねにしあらねばやどにある さくらのはなのちるころかも

不所比日の所あるべし

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首

戲奴（變云和氣）之為吾手毋須麻爾春野爾抜流茅花曽御食而肥座

わけのゝめすまにはるのゝぬけるつばなをぞめしてこえませ

わけは汝といふことゝ花の女郎とを掛れる物にしてかくいへるなり　戯奴とかくこゝにあれども歌にせば半は平声なり

ハ和氣とハ走ねゝ和りしものなり　宣長説を挙て委しくいひ合せたるなり

戯奴の下に變字反も設べしと契沖いひてもよけれのもまふ

ハ宣長ハ数よのことゝいひ下すもよからねどもよからうやとよ

ものとて抜穂ゝ茅花とくべ肥るといふこゝハせにあらねばハ

やせるくるしまれバのくるしまるなるべし

晝者咲夜者戀宿合歡木花君耳將見哉和氣佐倍爾見代

ひるハさきよるハこひぬるねむのきのわれのみんやとけさくるまよ

和名抄唐韵云樁和名祢布里乃木辨色立成云睡樹字鏡合歡樹椒名祢

夫利と訓ぶ案ずるに人のひとり寐るゆとりなきを君のゝみんやまてハ

解べうゝど君ハ吾の誤なるゝ和事ハ家相てをさて

右折攀合歡花并茅花贈也　茅花ハ三月合歡の花ハ六月にさく

なれハ時ちがひなれハ茅ハ紙せんなれハ接てゝくゝ考るとなるべし

大伴家持贈和歌二首

吾君爾戲奴者戀良思給有茅花乎雖喫彌痩爾夜須

わのきみにわけハこゝらたまひたるつばなをくへどいやゝやせよやて

ばわけハ我といつるなれど紀女郎ゝ贈ることなれ物

しゝくゝいつるを文てゝをるけとのくまゝ和ゝいつるとく彼方の歌の詞を

うけゝくゝまゝふいつるゝとの世ゝも付歌ゝ改ゝ世宇宙世伝ゝ字ゝ新ゝく

いれど先オハ作ゝ人の迷ゝ考るれハまゝ文ふいつのゝ考安ゝとゝ

吾妹子之形見乃合歡木者花耳爾咲而蓋實爾不成鴨

わぎもこのかゝみのねむハはなのゝきさてゝみなるゝかも

合歡のゝ花ゝるれハかゝのゝ女郎ゝ花のゝるゝてゝ考ゝ文ふいつのゝ考安ゝとゝ

らゝのゝいつゝ

大伴家持贈坂上大嬢歌一首

春霞輕引山乃隔者妹爾不相而月曾經爾来

はるかすみたなびくやまのへなれハいもにあハずてつきぞへにける

妹ハ大嬢のむすめなれハ和名抄のまゝ

右從久邇京贈寧樂宅

夏雜歌

芽ヲ茅ニ誤

藤原夫人歌　明日香清御原宮御宇天皇之夫人也、字曰大原大刀自、即新田部皇子之母也

巻二に出せる夫人にて、天武紀に夫人藤原大臣女氷上娘生但馬皇女次夫人氷上娘弟五百重娘生新田部皇子と有、此二人の中いづれにや

霍公鳥痛莫鳴汝音乎五月玉爾相貫左右二

ほとゝぎすいたくなきそながこゑをさつきの玉にあへぬくまでに

これハ四月によめる歌にて、まだ時ならぬほどなれバ、いたくなきそと惜む心、五月の玉ハ續命縷なれバ、ぬきまじへてとあづる時なるを、菖蒲などにぬきまじへてと云ふ

とゞまるくもあるを、巻十七、わがせこハ玉にもがもなほとゝぎすこゑにあへぬき手にまきて女信女伎

手にまきてゆかん、巻二十、みづらのなかに阿敝麻可ましとあり

志貴皇子御歌一首

神名火乃磐瀬乃杜之霍公鳥毛無乃岳爾何時来将鳴

かみなびのいはせのもりのほとゝぎすならしのをかにいつかきなかん

毛無をならしとよむハ人のふみならして地ハ草木のおふることなくてならしをかなるの名

良思の罟とよみて、或説ハ大和添上郡と云ゆ、なほ尋ぬべし

弓削皇子御歌一首　天武天皇の皇子

霍公鳥無流國爾毛去而師香其鳴音乎聞者辛苦母

ほとゝぎすなかるくにゝもゆきてしかそのなくこゑをきけばくるしも

なかるハなくてあるなり、くにゝもハ、いかなるくにへもいなんとなり、ゆきてしかのしハ助辞、かハ願詞

小治田廣瀬王霍公鳥歌一首　天武紀十年三月詔廣瀬王云々、令記帝紀、持統紀六年二月為留守官、元正紀養老六年正月卒とこそ

霍公鳥音聞小野乃秋風芽開禮也聲之乏寸

ほとゝぎすこゑきくをのゝあきかぜにはぎさきぬれやこゑのともしき

此歌ハ、秋風吹て芽子咲ころまであるを、いまだ夜なるに、ほとゝぎすのなくこゑのともしきハ、萩の咲ぬればにやとなり

むしりつることぬれやはぬれぞやのこと

沙彌霍公鳥詞一首　三方沙弥なるべし、姓と為せり

足引之山霍公鳥汝鳴者家有妹常所思

あしびきのやまほとゝぎすなのなけばいへなる妹をつねにおもほゆ

拾遺にはなるべしいそのしはゆ

刀理宣令歌一首

物部乃石瀬之杜乃霍公鳥今毛鳴奴山之常影爾

もの部のいそせのもりのほとゝぎすいまもなくのやまのとこのかげに

如の下香脱ヲ

如の下香脱ヲ

おのれ物は、ものゝはもけの人奴の下香のなるなるべし、とけはくるなるわくゝと花のことゝ思はれど、そも仮字なるべく、本花のことゝ本ハ木のまゝ、花のあるかごとく花ハさけどもいつもあごとゝ云れども山の本たゝ

なるべしとあいれき、宣もちゝとけハたとゝ山のなるみなるおとたとゝ

たわゝとゝいて

山部宿禰赤人歌一首

戀之家婆形見爾將為跡吾屋戸爾殖之藤浪今開爾家里

こいしけばかゝみとせんとわがやどにうゑしふぢなみいまはさきにけり

きゝけばを家一本久ゝ紫るこゝ家一本久ゝ紫るこゝ家一本久ゝ紫るこゝ

のちるれバをきるのれ久るせんとゝ

よるなるべし、蔡ちるこのちるこハ靡のこと

式部大輔石上堅魚朝臣歌一首　後紀養老三年四月従六位下

よゝ後五位下を授ゝるこゝ

霍公鳥来鳴令響宇乃花能共也来之登問麻思物乎

ほゝとぎすきなきとよもすうの花のともやきたるとまはものを

たゝはいるやゝ大はゝの妻郎女みちのくゝ堅魚朝臣清使ゝて

[illegible]はのかるれば[illegible]
[illegible]べし、此は既に[illegible]を寡途の[illegible]
たゞ[illegible]と思ひけるものなれば[illegible]
宇豆木　[illegible]此の[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]

右神龜五年戊辰太宰帥大伴卿之妻大伴郎女遇病長逝焉于時　勅使式部大輔石上朝臣堅魚遣太宰府弔喪并贈物色其事既畢驛使及府諸卿大夫等共登記夷城而望遊之日乃作此歌　記夷ハ和名抄筑前遠賀郡木夜郡夜

[illegible]

大宰帥大伴卿和歌一首

橘之花散里乃霍公鳥片戀為乍鳴日四曽多寸

たちばなの花ちるさとのほとゝぎすかたこひしてなきぬる日しそ多

橘のふるさとなれはほとゝぎすかたこひしてなくらんかも

大伴坂上郎女思筑紫大城山歌一首　拔ハ[illegible]の略なり[illegible]天平二年十二月大伴坂上郎女發帥家上道超筑前国宗形名児山之時の[illegible]

哉[illegible]四[illegible]ハ[illegible]

今毛可聞大城乃山爾霍公鳥鳴令響良武吾無禮杯毛

いまもかも大城の山にほとゝぎすなきてとよむらんわれなくなくも

[illegible]

大伴坂上郎女霍公鳥歌一首

何哥毛幾許戀流霍公鳥鳴音聞者戀許曽益禮

なにかもいくばくこふる郭公なくこえきけばこひ[illegible]まされる

上の句は[illegible]人を[illegible]何かもと[illegible]

[illegible]

小治田朝臣廣耳歌一首　後紀に廣耳とあり、小治田廣千[illegible]

[illegible]

獨居而物念夕爾霍公鳥從此間鳴渡心四有良思

ひとりゐて物おもふよひほとゝぎす　こゆなかなりとこゑのかなしき

大伴家持霍公鳥歌一首

宇能花毛未開者霍公鳥佐保乃山邊來鳴今響

うの花もいまだひらけざるほとゝぎすさほの山べをきなきとよもす

さのねだにはさのねふくもほとゝぎす　第十八参考

大伴家持橘歌一首

吾屋前之花橘乃何時毛珠貫倍久其實成奈武

わがやどの花たちばなのいつしかも玉にぬくべくその実なるなむ

むかしをもとり

大伴家持晩蟬歌一首

隱耳居者欝悒奈具左武登出立聞者來鳴日晩

こゑのみきけばいぶせみあをくさむしいでゝきゝけばさわがしひぐらし

和名抄尓雅注云茅蜩一名蠽比久良之小青蟬也とあり

大伴書持歌二首　家持の弟也

我屋戸爾月押照有霍公鳥心有今夜来鳴令響

わがやどに月おしてれりほとゝぎす心あるこよひきなきとよもせ

おしてれりは押わたして照せる也、巻十一　春日山月押照れりとよめるに友の語末なる付よめる也

我屋前乃花橘爾霍公鳥今社鳴米友爾相流時

わがやどのはなたちばなにほとゝぎすいまこそなかめともにあへるとき

我友にあへる時ほとゝぎすも猶よくなけの心也

大伴清縄歌一首　縄一本綱に作る

皆人之待師宇能花雖落奈久霍公鳥吾将忘哉

みなひとのまちしうのはなちりぬともなくほとゝぎすわれわすれめや

卯の花さけばほとゝぎすは来なくゆゑに人のうの花を待しといひて、ちりても

卯の花ちりぬるを来なれば、ほとゝぎすをわすれぬよし也

庵君諸立歌一首

吾背子之屋戸乃橘花乎吉美鳴霍公鳥見曽吾来之

わがせこがやどのたちばなはなをよみなくほとゝぎすみにぞわがこし

わがせこの橘をめでゝ来鳴るほとゝぎすを見に来りといへり、せこは友をさして

大伴坂上郎女歌一首

霍公鳥痛莫鳴獨居而寐乃不所宿聞者苦毛

ほとゝぎすいたくななきそひとりゐていのねらえぬにきけばくるしも

大伴家持唐棣花歌一首

夏儲而開有波禰受久方乃雨打零者将移香

なつまけてときたるまねぶてひさかたのあまのもちばうつろひちのんの

大伴家持恨霍公鳥晩喧歌二首

吾屋前之花橘乎霍公鳥来不喧地爾令落常香

わがやどのはなたちばなをほとゝぎすきなのがつちにおとしけるかも

霍公鳥不念有寸木晩乃如此成左右爾奈何不来喧

ほとゝぎすおもはずあるきこのころのかくなるまでにいかなどこのきに

大伴家持懽霍公鳥歌一首

何處者鳴毛思仁家武霍公鳥吾家乃里爾今日耳曽鳴

いづくはなきてもしにけむほとゝぎすわがさとのみにけ

大伴家持惜橘花歌一首

吾屋前之花橘者落過而珠爾可貫實爾成二家利

わがやどのはなたちばなはちりすぎてたまにぬくべくみにはなりけり

大伴家持霍公鳥歌一首

霍公鳥雖待不来喧蒲草玉爾貫日乎未遠美香

ほとゝぎすまてどきなくあやめぐさたまにぬくべくひをいまだとおみかも

蒲のことなるべしとは此歌にて知るべし

大伴家持雨日聞霍公鳥喧歌一首

宇乃花能過者惜香霍公鳥雨間毛不置從此間喧渡

うのはなのすぎばをしみかほとゝぎすあまのあいだもおきてこゆなきわたる

うのふの堂のうへ、の惜しさ、つの、夏の陰日ふいとそで惜けるかな

橘歌一首　遊行女婦　和名抄云、楊氏漢語抄云、遊行女児　和名宇加礼女　又云阿曽比

君家乃花橘者成爾家利花乃有時爾相益物乎

きみがのへのはなたちばなハなりにけりはなのあるときにあハまほしものを

さきのあるあるときにあとしつるかもとなるときにあハまほしものを

大伴村上橘歌一首

吾屋前乃花橘乎霍公鳥来鳴令散都

わがやどのはなたちばなを霍公鳥来鳴令散都

かくハ惜のものとしらでとよもあてハとよまへてかくてちらしつ

大伴家持霍公鳥歌二首

夏山之木末乃繁爾霍公鳥鳴響奈流聲之遥佐

なつやまのこのれの末ゝ霍公鳥ゝ鳴響なるこゑのはるけさ

惜の意をかやどのてりゝきをゆれゝゝ繁き惜の人乱遠きるゝゝ遠きるゝゝ

足引乃許乃間立八十一霍公鳥如此聞始而後将戀可聞

あしびきのこのまたちゝゝ霍公鳥如此聞始而後将戀可聞

あしびきの枝ゆ枝ゆ山のまゝゝせるゝ、えだゝゝ山のまゝゝせるゝ、えだゝゝ

のくをゝ隔るゝゝれゝ、枝ゆ枝ゆ谷見久ゝ枝ゆ枝ゆ谷見久ゝ

伎の伊ゝ神代紀漏をくきゝゝ訓、八十一とゝる八ゝ十一とゝる八ゝ十一とゝる

大伴家持石竹花歌一首

吾屋前之瞿麦乃花盛有手折而一目令見兒毛我母

わがやどのなでしこのはなさかりなるをたをりてひとめみせむこもがも

和名抄云瞿麦一名大蘭　和名大奈天之古、一云止古奈豆、又ハ女をり

惜不登筑波山歌一首　惜ハ恨の字の誤也

筑波根爾吾行利世波霍公鳥山妣兒令響鳴麻志也其

つくばねにわがゆかませばほとゝぎすやまびことよめなかましやそれ

宜なるかなしや八鳴ハせじといふ意也　筑波根に行し人の歌也の

おもしろかるべきを行ずしてよめるなり、其行きしんまハ志の深き

くハしくまできて恨めしき歌なるとよめるといへり、それと見て行ずに

と見ていひて、我行がざるを深く恨むこゝろ也

右一首高橋連蟲麻呂之歌中出　歌の字の下集の字脱たるか

夏相聞

大伴坂上郎女歌一首

無暇不来之君爾霍公鳥吾如此戀常徃而告社

いとまなみこざりしきみにほとゝぎすわれかくこふとゆきてつげこそ

いとまなくしてこざりし君に我かくこひしとほとゝぎす汝行て告よかし

とおもひたてる人、新古今集にも二の句をいとまなみとてのせたり、

之ハ坐の字の誤なるべし

大伴四繩宴吟歌一首　巻四ニ防人司佑とあり

事繁君者不来益霍公鳥汝太爾来鳴朝戸將開

ことしげみきみはきまさずほとゝぎすなれだにきなけあさとひらかん

女のよめる意の歌なるを、宴席にて友どちのとはざりしをよみて

なして誦せしなるべし

大伴坂上郎女歌一首

夏野乃繁見丹開有姫由理乃不所知戀者苦物乎

なつのゝしげみにさけるひめゆりのしられぬこひはくるしきものを

歌の意ハ、しげきにさきし姫ゆりのしられねば、我恋のしられずして苦しき

どころあるとききて、家もちとこも忘るる人にしられぬこととよ、ゆめハ
まへくうつしくちひきまいよ詞之、字一本曾ならる

小治田朝臣廣耳歌一首

霍公鳥鳴峯乃上能宇乃花之猒事有哉君之不来益

ほとゝぎすなくをのうへのうのはなのうきことあれやきみがきまさぬ

上ハうきといはん序也、我とひさしくとはずあれバかやきみがこぬ
ことにいふ、此君ハ友といふ、またに二つあるうぐひすものをいふ垣のの
ふかゝれるのみならず全同意あり

大伴坂上郎女歌一首

五月之花橘乎為君珠爾貫零巻惜美

さつきのはなたちばなをきみがためたまにこそぬけちらまくをしみ

君がくせんとおもふ花の実の地に落んものをとおもへバまだぬきもせんと、余の

下一本社の字なりてよき

紀朝臣豊河(トヨカハ)歌一首

吾妹兒之家乃垣内乃佐由理花由利登云者不謂云二似

わぎもこがいへのかきつのさゆりばなゆりといへるはいなといふににる

かきつハ垣内也、垣のうちをいふ、うちのうの字と略さ、ちをつ音にかよはせたる、垣津
田とよめれバ、かきつと訓べし、上ハゆりといはん序也、ゆりハよりてしらべしお
逢をいふ、このよりて逢んといふことハ、よそへいふに及ばぬ、下句ハ諷の
字のこゝろにてきこゆべしと為ハられき、当十八ところ人の意にしゆるさ
ゆるすゆるしあらんとおもひたりてき、さゆりがゆりとあらんとおもへらむ
今のまさこのはしるくしみちもれ、こゝろにかゝげつるるに、宣長云、不
後ゆりいふすとゆるしいへる例これのみ、此集の中にも後ゆるといへることば
まあらんといへど、下句ハ或人不謝(イナトイフ)云二似(ニヽツ)なるべし、はなあらんどいふハ不許(サナ)とらず

何ぞ[illegible]いつ、[illegible]八絃ぐき[illegible]の[illegible]と[illegible]つ

高安歌一首　半三高安大島といふを

暇無五月乎尚爾吾妹兒我花橘乎不見可將過

[illegible]

大神女郎贈大伴家持歌一首

霍公鳥鳴之登時君之家爾往跡追者將至鴨

[illegible]

[illegible]

大伴田村大嬢與妹坂上大嬢歌一首

古郷之奈良思之岳能霍公鳥言告遣之何如告寸八

[illegible]

[illegible]

大伴家持攀橘花贈坂上大嬢歌一首并短歌

伊加登伊可等有吾屋前爾百枝刺布流橘玉爾貫

[illegible]

五月乎近美安要奴我爾花咲爾家里朝爾食爾出見毎

[illegible]

氣緒爾吾念妹爾銅鏡清月夜爾直一眼

[illegible]

令覩麻而爾波落許須奈由采登云管幾許吾守物乎

[illegible]

宇禮多伎也志許霍公鳥曉之裏悲爾　雖追雖追
うれたきや、しこほとゝぎす、あかつきのうらがなしきに、おへども、おへども
尚来鳴而　徒　地爾令散者　為便乎奈美　攀而手折
なほもきなきて、いたづらに、つちにちらせば、すべをなみ、よぢてたをり
都　見末世吾妹兒
つ、みませわぎもこ

いのちしハ橘のはなさく、かどをいふなるし、其みしく緒とるんとをいひて、有ハ居也、宮あるいのちしハ謂ふるなるべし、或人云、伊追之可等待の誤れ追ふと加へヲ誤り、下の伊ハ祈、緒を有ヲ誤れるにて、花の咲をいつかと待よりて折るべし、百枝さしハ此枝さしといふさするに同じく、枝のさし出るを、あふなふハ、卷十八ハ橘をよめる長歌に、安由流実ハむすぬきつれ、卷十八ハみなの花の阿要奴盤とあるも、此の後ハ落る例ハ、古人ハ

花の熟せるをあえぬといひて、又も五月をまちて既熟ぬがねといひて、花よハ時ニ集めてたまふしんなるべし、かずの日ハがねと同じく、兼てまうけ置ことあるを改ていへり、食ハ借字なり、宇せしるといへる字に、まつ諸説詞、神代紀白銅鏡とまうゐのかゞみと訓ぶ、れ綱綾あるて、てらせるハ数ありなのれど紛るく、よそれ出、うれたきや、他ヲ慨哉をられたきこそのや訓、志こハ醜あく、ほとゝぎすを罵語く、卷二志このますらを、卷三志こその志こ草るなど以ヲ同じ、卷十三ハ慨哉四去霍公鳥今こそハとよむるの也、うらがなしハ心悲しきくなりめしハ妙辞

反歌
望降清月夜爾吾妹兒爾令觀常念之屋前之橘
かちくだちきよきつくよにわぎもこにみせんとおもひしやどのたちばな
ころくだちハ十五日をる後くなる

妹之見而後毛將鳴霍公鳥花橘乎地爾落津

二之句ハ〻〻ものなれとも花橘とのさく

大伴家持贈紀郎女作歌一首　目録ニ作のうたなきとよしとす

瞿麥者咲而落去常人者雖言吾標之野乃花爾有目八方

半三大伴孫の屋ニ梅のもとにてちるを人にいでしめのたまふあるいはれなでしこはさきてちりぬといへどわがせあしめのたまふあるいはれ

半四ちるを見ていでれをうりをせん、そいとこちるさんのうちれを人にいでしまうて一時ごろ山にあるで、他人のうんとつるんこ他郎女をさして

よ見るを聞くなり

秋雜歌

岡本天皇御製歌一首　鈔明天皇ニ

暮去者小倉乃山爾鳴鹿之今夜波不鳴寐宿家良思母

ゆふされば小倉の山に鳴しかの今夜はなくねぬらしも

半九ようく麻のとを、卧鹿のこゑて雄男天皇の御製とうた注なり

或本云岡本天皇御製不審三位指因以異載とうく小倉山ハ大和ニ

九半寄ヨ、紀田の山の説上の小鼓岳みとよる山なるべし

大津皇子御歌一首

經毛無緯毛不定未通女等之織黃葉爾霜莫零

たてもなくぬきもさだめぬをとめらがおりもみぢばに霜なふりそね

かみ〻ものとやうで絡ようて、をとめらがおりもみぢばに霜なふりそ

藤ヨ付て、山機霜杼織葉錦と作みるよ同ことく

穂積皇子御歌二首

今朝之旦開雁之鳴聞都春日山黃葉家良思吾情痛之

女ヲ子ニ誤不ヲ下ニ誤活本不ニ作ニ見

けさのあさけかりがねきゝつかすがやまもみぢにけらしわがこゝろいたし

わがこゝろいたしハ秋の物がなしきの情をいふ

秋芽子者可咲有良之吾屋戸之浅茅之花乃散去見者

あきはぎハさきぬべからしわがやどのあさぢがはなのちりぬるみれバ

つぼみハ萩のさくを待よし秋ちかくなるをいふ

但馬皇女御歌一首　一書云子部王作

事繁里爾不住者今朝鳴之雁爾副而去益物乎

ことしげきさとにすまずハけさなきしかりにたぐひていなましものを

一云國爾不有者（クニニアラズハ）

いひさわがしきさとにすまんよりハ不を下に誤れる事ハまゐらせで何とあらばハよそなるひとくにゝ行んよりハけさの雁とゝもにいなましものをいひしよしあらんとかいへる

山部（サベ）王惜秋葉歌一首　此王天武紀に見ゆ未詳されど桓武天皇いまだ王にてましけるほど山部王とまをせしかバこれ本この

秋山爾黄反木葉乃移去者更哉秋乎欲見世武

あきやまにもみづこのはのうつりなばさらにやあきをみまくほりせん

此黄ハ黄変とあり反ハ変の省文なるべしうつるハちりゆくをいふ此をとりかへてかへのあれバゆつりなぞとよみしもみぢの散果るバ又まちて秋のくるをいふべき也

長屋王歌一首

味酒三輪乃祝之山照秋乃黄葉散莫惜毛

うまさけをみわのはふりがやまてらすあきのもみぢばちらまくをしも

味さけハ枕詞ニ三の句ハ祝が斎まつる山と思ふをいふされど句のつゞき穏ならず宜ハ三輪のいはひのやまといふべしいはひの山ハ神を斎まつる山とりつるといふてもありぬべきこの

山上臣憶良七夕歌十二首

天漢相向立而吾戀之君来益奈利紐解設奈

あまのがわあひむきたちてわがこひしききみきますなりひもときまけな

一云向河（カハニムカヒテ）

織女のかたとよりてまけるひもとくらんを

右養老八年七月七日應令　後代の元正天皇養老七年九月神

亀出八年二月改号神亀よりさきはかぞへ七年の誤るべし

久方之漢瀬爾船泊而今夜可君之我許来益武

ひさかたのあまのがわにふねはてこよひかきみがわがもときますらん

そもそもたるひは、わがそはぬ、のがふはぐくもとゆるくるを、一本漢の

上に天字あるく、瀬のうへに、きのくるべあまのがわらふしよりべし

右神亀元年七月七日夜左大臣家　長屋王のおほべ

牽牛者織女等　天地之　別時由　伊奈宇之呂河

ひこぼしはたなばたらとあめつちのわかるときゆいなうしろがそ

向立　意空　不安久爾　嘆空　不安久爾

むきたちおもそらやすからくなげくそらやすからく

青浪爾　望者多要奴白雲爾　滯者盡奴　如是耳也

あをなみにのぞみはたえぬしらくもにとどこほりはつきぬかくのみや

伊伎都枳乎良牟如是耳也戀都追安良牟佐丹塗之小船

いきづきをらむかくのみやこひつつあらんさにぬりのをぶね

毛賀茂玉纏之真可伊毛我母一云何毛揮朝奈藝爾伊可伎

もがもたまきのまかいもがもあさなぎにいこぎ

渡夕塩爾一云夕倍加毛伊許藝渡久方之天河原爾天飛也

わたるゆしほにくかたのあまのがわらにあまとぶや

領巾可多思吉真玉手乃玉手指更餘宿毛寐而師可聞 一云伊毛左祢而師加
ひれかたしきまたまでのたまでさしかへあまたいもねてしがも
秋爾安良受登母 一云秋不待登毛
あきならずとも
いたりける挿頭、字ハ隼の誤也、此歌ハ彼の星をさして、此ハ二星ニよりて言也
られて、ゆゑなきにしもあらぬ也、此をはいはひて波の底のなかに
あそびをるなり、さればのちに舟ハ丹ぬりにぬれるかとなるとりて、さハ愛誤し
集中あけのそほ舟ともよめる事同じ、むかしの古事のいひつたへ物ありけむ
つけし借りせるなり、いかさいてこのいハ愛語、かきハかつて水とか
くとりて、天漢やハ、ひとよのみなるればゆくせるのこふかくたび旅中をおもふ
誤りなへ、もつれたるのむかしの人ハ、考ちがふ因語なる、あまりてハ、
あまり夜はいみじく愁しく、さて又ひとつの伝をきねてしがのさハ愛語也
いねてしがもと云ふ、宿ハ宿の字の上に一句落たる也、餘の字ハ一本の一字
ありぬべしといへり

反歌

風雲者二岸爾可欲倍杼母吾遠嬬之 一云波之嬬乃 事曽不通
かぜくもハふたつのきしにかよへどもわがとほづまのことぞかよはぬ
風と雲とを以て、事ハ言也、一本の波之つまハ愛妻のこと

多夫手二毛投越都倍伎天漢潡太而禮婆可母安麻多須辨奈吉
たぶてにもなげこしつべきあまのがはへだてればかもあまたすべなき
たぶてハ飛礫なり、さてつぶてといへる、後のものハ手撃なるべし、さてハもてつるにて
古言也、さて河ハ目に見ゆれども、隔てれバこそ使もかよはせず、すべなきと

右天平元年七月七日夜憶良仰観天河 一云帥家作

天河の下作の[illegible]この仲八[illegible]人[illegible]

秋風之吹爾之日徒何時可登吾待戀之君曽来座流

あきかぜの[illegible]

[illegible]

天漢伊刀河浪者多多稱抒毋伺候難之近此瀬乎

あまのがわいとかなみはたてねどもさきくひがたしこのせをを

[illegible]

後[illegible]

[illegible]

袖振者見毛可波之都倍久雖近度為便無秋西安良禰波

そでふるもみもかはしつべくちかけれどわたるすべなし秋にあらねば

[illegible]

玉蜻蛉髣髴所見而別去者毛等奈也戀年相時麻而波

かぎろひのほのかにみえてわかれゆくもとなやこひんあふときまでは

かぎろひの[illegible]

右天平二年七月八日帥家集會

牽牛之迎嬬船已藝出良之漢原爾霧之立波

ひこぼしのつまむかへふねこぎづらしあまのがはらにきりのたてるは

[illegible]

霞立天河原爾待君登伊往還程爾裳襴所沾

かすたつあまのがはらにまちきみといゆきかへりのほどにもすそぬれぬ

[illegible]

天河浮津之浪音佐和久奈里吾待君思舟出為良之母

あまのがはうきつのなみをさわぐなりわがまちきみしふねでをらしも

天上のうなゐ淵〜〜ふるの神代紀天浮橋をさいて、なみ〜〜八坂の玉と
ゆいつり、ふるの八坂八尋の語ふる〜〜淵澤のなみのしらんとしるれき

太宰諸卿大夫并官人等宴筑前國蘆城驛家歌二首

娘部思秋芽子交蘆城野今日乎始而萬代爾將見
ちりみだれ〜あきはぎまじるあきのめぐけるとりてよろづよまでみむ

珠匣葦木乃河乎今日見者迄萬代將忘八方
たまくしげあしきのかはをけふみればよろづよまでわすられめやも

むくげ咲ぬ、あきのゆきあきのかはかぜ葦城の野あらしとんゆ

右二首作者未詳

笠朝臣金村伊香山作歌二首　和名抄近江伊香郡弓、神名帳

伊香郡伊香具神社ゆ、巻三ゆ越ゆへ下ゆは弓、さるそのゆう

草枕客行人毛往觸者爾保比奴倍久毛開流芽子香聞

くさまくらたびゆくひとも行きふれば匂ひぬべくもさけるはぎかな

ゆきふれば行きふれぬべくもさけるはぎかな、ふるの衣をそなへぬべくも

伊香山野邊爾開有芽子見者公之家有尾花之所念

いのでやまぬべるさきふるはぎみれば君がいへなるをばなおもほゆ

なつの草くさ〜〜やまるるをばー

石川朝臣老夫歌一首　續紀文武天皇二年秋七月直廣肆石川朝

臣小老爲美濃守〜〜ゆ、此小老のるるゆ

娘部志秋芽子折禮玉桙乃道去畏跡爲乞兒

をみなへし、あきはぎをれるまがこのみちゆきづ〜〜こばんこのこめ

折の上手の字を爲せ〜〜う字をもハれハ此の佐〜〜をもなるんこ〜ゆ

藤原宇合卿歌一首

我背子乎何時曽旦今登待苗爾於毛也者將見秋風吹

わがせこをいつぞいまのとまちをるへるおもかやみくんあきこのぜのふく

七夕のかりこべし、面白ハ面白のさう、考十八杜毛校日都良之ゑこゝ

よりこゝろ、さく也と和と毛こるハ考こゝ毛まこゝろる和といこれ也ゑてうハ考

せこゝいつまこゝろで今まるこゝ絡毛こゝ、面白のこゝのべきけよ朱わこゝ

宮毛ハ杜ハ考の張也ハ也の張こゝ、輝毛世者将見あきこのぜのふけるべ

却ハ風の言へこいつ、杜考べし

縁達師謌一首　仮ちるべし

暮相而朝面羞隱野乃芽子者散去寸黄葉早續也

よひあひてあたれるみなかるめのあさかちかほこゝろみちやつゝ

去迄に多よ面白ハ一きこゝ、隱こゝ家こゝ毛こゝ隱ハ考一

已津地隱乃山、まこゝ面考暮相而朝面無羞隱糸加こゝ考考

でるかくなこゝ毛こゝ、伊賀の名張野の芽こゝ、なこゝ隱こゝ古注

なこゝ毛こゝ宮毛ハ隱こゝ考也ハこゝ

一ハ朝面毛こゝ考れバこゝ

つぎこゝ考芽毛こゝ

山上臣憶良詠秋野花二首　歌の下日隔る歌の言こゝ

秋野爾咲有花乎指折可伎數者七種花　其一

あきのゝよさきこゝるこゝ毛をゝ杜よび考かきこゝ

和名抄指北与　こゝあり、ゆこゝ野ハ杜こゝ考かこゝ、かきハ泊考十七かきかゞこゝ

二ゝ考也

芽之花乎花葛花瞿麥之花姫部志又藤袴朝貌之花　其二

はぎの花をばなくずばなくずがなでしこのこゝみこゝ

おみなへしまあさがほのこゝ

杜考こゝ考生考こゝ杜考こゝ杜考こゝ考こゝ、彼ゝ新こ

こゑ聞まさりなれとよるなどハ雁花ぬけなハいづれそとなくべし、たゝ二こゑ
なく声をきくなれバ詩をよるぞらくて其一 其二ゝゝゝ

天皇御製歌二首　聖武天皇之

秋田乃穂田乎鴈之鳴聞爾夜之穂杼呂爾毛鳴渡可聞

あきのゝ穂ぐをかりがねやよのほどろにもなきわたるかも

徒らに田をもを、原よりしひをもとひ、ほどろハほのゝとあけぬ夜の
ほのゝとあけぬまでハ我必ずれば寝ぬ

今朝乃旦開鴈之鳴寒聞之奈倍野邊能浅茅曽色付丹来

けさのあさけかりがねなきむくきゝなへのべのあさぢぞいろづきにける

あさけハ朝明

太宰帥大伴卿歌二首

吾岳爾棹牡鹿来鳴先芽之花嬬問爾来鳴棹牡鹿

わがをかのふさをもこのきなくさきたるのやなつましひさきたるのくさとこの
さきたるハ初芽なり　拙ハ矣もるれどさいだすといつるしけさきを用ひ芽なり
ツまハ妻なり　鹿のこ芽を食ふ則子をのるれバ芽なと鹿の妻にして花
つまハ妻なり

吾岳之秋芽花風乎痛可落成将見人裳欲得

わがをかのあきはぎのちるかぜをいたみちりぐくなるあをんひとゝもがも

三原王歌一首　後紀勝宝四年七月甲寅中務卿従三位三原王薨

一品贈大政大臣舎人親王之子也ゝゝゝ

秋露者移爾有家里水鳥乃青羽乃山能色付見者

あきのつゆハうつりなりけるみづとりの青はの山のいろづくをみれば

四時ゝゝゝ青摺蓁摺花摺ハすべて古へよりそれぞれ色と紙ぞ
よ深ゝゝゝ、さゝいつるくもきあるをつゝとよまるべし、ゝゝ

[illegible]

湯原王七夕歌二首

牽牛之念座良武従情見吾辛苦夜之更降去者

ひこぼしの思ひ乱れ心ゆ見るらむ我れ苦しよの更け行けば

[illegible]

織女之袖漬三更之五更者河瀬之鶴者不鳴友吉

たなばたの袖漬す夜の五更は川瀬の鶴鳴かずともよし

社で小社[illegible]

[illegible]

市原王七夕歌一首

妹許登吾去道乃河有者附目縅結跡夜更降家類

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原朝臣八束歌一首

椿四香能芽二貫置有露之白珠相佐和仁誰人可毛手爾

將卷知布

呂ノ下布ヲ脱

さとこのたぎるぬきおけるつゆのさらたまあつさわるこれのひと
のもてふまのんちく

旋頭歌　半十一　ちのくぼのわくぼのわくぼのといてられ榻猪九ちよあるを、
これはあつのふはをきひく淡海ちいてうまくべ、あをつけ
きいつ河こ河ど、ふはまをと鹿の乳妻しいへば黄金の蓋と鹿の要
乳るをて、ちむと作くうつあそうくさとぎて、ゆを作ちん
といているくと為いてれき、空をそらあをづくふおかざちいつ河あの、
れけあつさちの祝きるうく、をはいわぐちとちの河のちとあつちとと今
河ぐといて

大伴坂上郎女晩芽子歌一首

咲花毛宇都呂波散奥手有長意爾尚不如家里
さくはなもうつろはちおくてなるながきこころにしかずいへのさと

今ノ特字ヲ脱

呂の下布と為せば、奥ちは晩稲をおくてといふあり、黄色の花さくこの
をきをといふ、ちくぐく花いうつろぐうきあるれば心もくおろくなるる
ちのぐちうろこ

興鑄正紀朝臣鹿人至衛門大尉大伴宿禰稲公跡見庄
作歌一首　今興鑄司匠一人掌造鑄金銀銅鐵之事　跡見ハ城上郡之今外
山村いうつぐ、神武紀金色鵄飛来て御弓弭に止まる、時人鵄邑と云、今
鳥見ちちハ化也ちる

射目立而跡見乃岳邊之瞿麥花総手折吾者持将去寧樂
人之為
いめたてとみのをぐのなでしこのちるさたをわれはもてい
なんなちびとのため
射目ちくいめたてとちハ半千七わのせこのちるを折ちる

とゝるべしも可よみ〳〵しかやのよくも知く着の下持を後せう一本よ伝〳〵改

湯原王鳴鹿歌一首

秋芽之落乃亂爾呼立而鳴奈流鹿之音遠者

あきはぎのちるのまがひに呼たてゝなくなるしかのこゑとをけさ

まがきのうへにおもかげつたゝ、庵の詠のまく〳〵ゆゝしくとゝ久

市原王歌一首

待時而落鐘禮能雨今零収朝香山之將黄變

ときまちておつる鐘礼のあめもやめてあさかのやまのこゝろ〳〵ぬらん

和名抄霖雨小雨也、和名之久れ、新古今心ハ法眼のかきそえ、此歌身くゝ十

五ゝ首の、一本収の下閑のこゝろ〳〵、三の句ことさらのこゝろ〳〵、詠ぶるこゝ

の考べし

湯原王蟋蟀歌一首

暮月夜心毛忌努爾白露乃置此庭爾蟋蟀鳴毛

ゆゝしくよこゝろもいとはぬに白露のおくこのにはにこゝろぎなくも

こゝろふかくこゝろひこゝろふれとゝなる心ひのこゝろ、蟋蟀罰きもくもこゝろ

もゝ〳〵こゝ年叶ふこゝろきり〳〵川こゝ、こゝろ〳〵のしゝこゝれバ弱ハこゝか

ゝぎくこゝまれ〳〵、和名抄文字集畧云、蜻蛚精列二音、和名古保呂木こゝ

ふるこゝ、こゝ海こゝ蜻蛚こゝ古ゝ文選晉張孟陽七哀詩ゝ仰聽雛鳴

鳴、俯聽蜻蛚吟〳〵ゝ、李善ゝ注ゝ易通卦驗曰、立秋蜻蛚鳴、蔡邕月令

章句曰、蟋蟀虫名、俗謂之蜻蛚、ゝ古ゝ又古詩ゝ蟋蟀吟、蜻蛚吟〳〵ゝ

ゝこゝいこゝ、かれバ蜻蛚〳〵蟋蟀ハ同物ゝ、ゝ古ゝ

蟋蟀ゝこゝ古ゝ、ゝ和名抄ゝ蟋名苑云、蟋蟀一名蟋、

和名木里木里須ゝこゝ〳〵ゝ、ゝ〳〵ゝ名ゝ古ゝいこゝ名ゝ〳〵、こゝ

ゝこゝ〳〵こゝ海ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

衛門大尉大伴宿禰稲公歌一首

鐘禮能雨無間零者三笠山木末歴色附爾家里

おぐれのあめまなくふれば みかさやま こずえあまねくいろづきにけり

大和のこぞとかも

大伴家持和歌一首

皇之御笠乃山能黄葉今日之鐘禮爾散香過奈年

おほきみの みかさのやまの もみぢば は けふのかねにち りすぎにけん

おほきみの はなぞ

安貴王歌一首

秋立而幾日毛不有者此宿流朝開之風者手本寒母

あきたちて いくかもあらねば このねぬる あさけのかぜは たもとさむしも

あしねぐ は あしねぐ と かく 京倒也 このねぬる 夜の ひく 此

壞ヲ壞ニ誤

郷ヲ卿ニ誤

秋田苅借廬毛未壞者雁鳴寒霜毛置奴我二

あきたかり かりいほも いまだ こぼたねば かりがねさむし しもおきぬべし

壞と壞とは偏もかはらぬ故、たがひに通ずるかと思ふべし

忌部首黒麻呂歌一首

故郷豐浦寺之尼私房宴歌三首　持統紀五寺大宮、飛鳥川原ふ

あきてくのこのかぜ はあまねくて ゆきとのにのみ ふりしかなくは

墨田、豐浦、坂田、等、光仁紀重祚ふ、萬葉寺乃前在也、豐浦寺乃西在也、

豐浦は推古天皇の都、しるし、不し、此時の都は、藤原の宮のこと

故ゆえ いつて

明日香河逝回岳之秋芽子者今日零雨落香過奈年

あすかがは ゆきめぐりたる をかのはぎ は けふのあめに ちりかをすぎなん

ゆきこの字大和ことゆ、字もちゆきれむをのとよみく、字の形ちがふ所をいひて、
地名はあらじ、半四衣もと方廻屋とあるて、半十一かくるひの方巳前とあるも、
たゞ方八折の誤なく、そなたむきとなるべし、いつれ考べ

右一首丹比真人國人

鶏鳴古郷之秋芽子乎思人共相見都流可聞

らづるかくふりはものおきそぐちもひぐちあひみつるかも
つゝ多樹は、ものゝ人とかくる

秋芽子者盛過乎徒爾頭刺不挿還去年跡哉

あきはぎは佐かりまさるといづるかぎりはさきぬかつてかりんとかへ
挿とか樣の字れて一ありしもの改つ

右二首沙彌尼等

大伴坂上郎女跡見田庄作歌二首

月ヲ目ニ誤

吉ヲ古ニ誤

妹目乎始見之埼乃秋芽子者此月其呂波落許須莫湯目

いもがめをとみそめのさきのあきはぎはこのつきごろいたりてもなゆめ
始は跡の字ちるべし、埼は丘辺とあるべし、目は乎の紛れるなんとみのをぐ
て、は婦ちるべしかるべし、さく時のめをといとみの紛れるなんて冠辞考よく
も、此の下目の字ちなれどもとよりとも、付部女作保の坂上とよりて、
沙弥尼のをぐとは、ひくさいるる路を田庄作業とちるるなん
の式ちて竹田庄作ちるべ然ちる者ひりちを面とかりぐる田づ作ちるをれば
字なれゆゝよりる八郎を庄ちるべくのうち

吉名張乃猪養山爾伏鹿之嬬呼音乎聞之登聞思佐

よなばりのゐのやまふしかのつまよぶこゑをきくらことをさ
吉とは古ちなれ、よるべ、ゆゝしの山辺ちるべ、さいをべ、をを
巫部麻蘇娘子鴈歌一首

今一ノ字ヨ脱

誰聞都後此聞鳴渡鴈鳴乃嬬呼音乃之知左寸

たれきつてゆかきわくるかりがねのつまよぶこゑのゆくをしらさて

誰ゆきつるこゑ之知左寸浮ゆくべし、さと雲中きのゝみは風く、ちるあし

ゝるハれ二空ちゝ、を蜘在可ゝろ、が語れるゝんとゝ、くあるこゝ紙で、

誰ゆ都ハ法の侯ゝく、たれきけとゝるゝんゝいつゝ、をハ寸郡ゝゝあゝゝ

大伴家持和歌一首

聞津哉登妹之問勢流鴈鳴者真毛遠雲隱奈利

きゝつやと、いもゝとはせるかりがねハまゝとゝゝくゝもがくるなり

とハせるハとゝるこ

日置長枝娘子歌一首

秋付者尾花我上爾置露乃應消毛吾者所念香聞

あきづけハをゝなゝのゝへふおゝくつゆのけぬべくもわゝおもゆるかも

秋づけハ花ゝ月ゝ日ゝ夕ゝ付ゝ日ゝのゝくゝ秋ゝ月ゝ付ゝこゝハ清ゝこゝハ清ゝこゝん序のこ

大伴家持和歌一首

吾屋戸乃一村芽子乎念兒爾不令見殆令散都類香聞

わのやどのひとむらはきをおもふこにみせでほゝとゝちつるかも

をぶが花のおもゝんこゝるまでゝあゝこゝをゝ、ほゝとゝハ沒也

大伴家持秋歌四首

久堅之雨間毛不置雲隱鳴曾去奈流早田鴈之哭

ひさかゝのあまゝもおのぶゝゝがくゝりゝるきゝゆくゝなるゝわゝさだのゝとがね

ひさかゝのゝあのゝゝゝ

[illegible]

雨隠情欝悒出見者春日山者色付二家利

あまごもりこもりいぬせみいでられずかもりのやまはいろづきにけり

[illegible]

雨晴而清照有此月夜又更而雲勿田葉引

あめはれてきよくてりたるこのつくよまちてとりもれるびき

[illegible]

右四首天平八年丙子秋九月作

藤原朝臣八束歌二首

此間在而春日也何處雨隠出而不行者戀作曽乎流

こゝにありてかすがやいづくあまつみいでゆのねばこひつゝぞをる

[illegible]

[illegible]

春日野爾鐘禮零所見明日往者黄葉頭刺年高圓乃山

かすがのゝにかねはふりくるみゆあすゆくはもみぢかざしんたのまとのやま

者一本夜[illegible]

大伴家持白露歌一首

吾屋戸乃草花上之白露乎不令消而玉爾貫物爾毛我

わがやどのくさばなのうへのしらつゆをけぬがにたまにぬくものもがな

[illegible]

[illegible]

大伴利上歌一首　利八村の係なるべし、村上八既出

秋之雨爾所沾乍居者雖賤吾妹之屋戸志所念香聞

あきのあめにぬれつゝをれば いやしけど わぎもがやどし おもほゆるかも

いやしけどいやをれどしくもハ拾ひてよるなるべし、たのしばの葉のやど
とハれをてのおとらでし、さてハ銀鍋の旧跡なるべし

右大臣橘家宴歌七首

雲上爾鳴奈流鴈之雖遠君将相跡手回来津

くものうへになくなるかりのとをけどもきみにあへとたもとほりきつ

一二の白ハ遠といふん序のこゝたりをもまりのこゝ

雲上爾鳴都流鴈乃寒苗芽子乃下葉者黄変可毛

くものうへになきつるかりのさむきなへ芽子のしたはハきるべくなりけるかも

苗ハ佐字なるべし

右二首　こゝ花ちのんるべきことを戒めしく

此岳爾小牡鹿履起宇加涅良比可聞可開為良久君故爾

許曽

巨ヲ臣ニ誤

このをのれをのふみおこうめねらひかてのくたちてくきみゆゑのよこてを

巻十類聚歌林に云ふ山吉のひとりごとに云ふ此の白拙

字なるべし宣長成人の考に方知居良久るべし可考とあれども、たの

聞とも聞は信ず居を為る誤れるべ巻十三巻のふるの字のことをよいめそ、

考結のことをきてわの結考とと宣ふいて、終考べきこゝ歌のなるとと、

此時頃せりなるべし、巻六天平十年八月廿日宴右大臣橘家寿ことを廿長門守

巨曽倍對馬朝臣のうたをもし同時なるべし

右一首長門守巨曽倍朝臣津島

秋野之草花我未乎押靡而来之久毛知久相流君可聞

あきのゝくさはなをもおしなびてこしくもあへるきみかも

知るべしかはをもてみくに道の労といふこゝにハまことに

巻人をさて

今朝鳴而行之鴈鳴寒可聞此野乃淺茅色付雨家類

けさなきてゆきしかりがねさむみかもこのぬのあさぢいろつきぬらむ

原の詠の分きうべしこのアーら此野のあさぢのそなれバとりつゝ佐句け

さしいそぎさをけゝ為るハ上のさむみぬかの佐びゝと宣ちいてり

右二首阿倍朝臣蟲麻呂

朝扉開而物念時爾白露乃置有秋芽子所見喚鶏本名

あさどあけくものおもひときさるしらつゆのおくるあきはぎみてとりなく

鈴とゆるとそらきらいでくハつゝやいしろん喚大追馬をまてのかもよ

ちるぬ

桙牡鹿之来立鳴野之秋芽子者露霜負而落去之物乎

さをしかのきたちなくぬのあきはぎハつゆしおひてちりぬるものを

ものとのね時くいなるー

右二首文忌寸馬養（アヤイミキ　ウマカヒ）　後紀霊亀元年四月癸亥詔壬申年功臣之子文忌

寸孫麻呂息正七位下馬養等十人賜田各有差ゝ

天平十年戊寅秋八月二十日　これハよるつくる

橘朝臣奈良麻呂結集宴歌十一首　後紀天平勝宝二年橘宿祢諸

兄賜朝臣姓ゝ元ハそれより前ハ朝臣ゝ也ハ宿祢ゝ改べー

不手折而落者惜常我念之秋黄葉乎挿頭鶴鴨

たをらずてちるぬるものとハ吾ハ思ふ秋黄葉を挿頭つるかも

ものあるまをちるぬるものゝ秋ぬしハ芙蓉ふとるわかぬつゝひて集

ものとのとろぶをとゝれて

布将見人雨今見跡黄葉乎手折曽我来師雨零久仁

めづらしきひとゝみんとかみぢをたをりぞわがこしあめのふるくに

布将見ハ上きてゝんと測れど極るべで、宣ちゝ、布八希の誤るべ、ぬづ〜きー

布八希ノ誤

所べし、巻十六つ人ほとゝぎすとも　希将見（ノヴラミキ）、巻十一希将見君をこそ
で、巻十二大王の志やゝあまの蘆火もれハもれぐし除希将見（イヌ　ノヴラシモ）
はるゝ〳〵とあるといふ、ふるゝハふるを延るり

右二首橘朝臣奈良麻呂　胡臣を宿禰ゝ改べし

黄葉乎、今落鐘禮爾、所沾而来而、君之黄葉乎、挿頭鶴鴨

ゆみぢぞをちらしてきぬれ〳〵きてきみおもひをかぐ〳〵つるかも

こゝれるあれつ　はまて、まゝの国のゆみぢとかぐ〳〵　をてりつゝ

右一首久米女王　後紀天平十七年正月無位より後五位下と授とゝあり

布将見跡、吾念君者、秋山、始黄葉爾、似、許曽有家禮

ゆゝつ〳〵とわのゝ〳〵きみハあきやまのそこりみぢだにはてゝこそあらゝれ

よまいへるあく、これも布八希の誤ん、ゆりゝ〳〵ぶゝ〳〵ハめづ〳〵めてゝ〳〵

ゝとかるゝ

右一首長忌寸娘　もと忌子氏の姓ゝあるべし

平山乃、峯之黄葉、取者落、鐘禮能雨師、無開零良志

なゝゝやまのみねのゆみぢぞとれバちる　ゝれのあめ　まゝ〳〵ふるらし

ゝれのゝ〳〵ゝ　ゝゝ　ゝのゝ〳〵ぢとれバゝゝ〳〵ゝ

右一首内舎人縣犬養宿禰吉男（ヨシヲ）　後紀宝字二年八月正六位上

より従五位下を授ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

黄葉乎、落巻惜見、手折来而、今夜挿頭津、何物可将念

ゆみぢぞをちらまくをしみたをりきてこよひかざ〳〵つるゝをゝもはん

右一首縣犬養宿禰持男（ヲナヲ）

足引乃、山之黄葉、今夜毛加、浮去良武、山河之瀬爾

あしびきのやまのゆみぢぞこよひもかうきてゆくらんやまがゝのせゝ

もゝのこゝハ疑ゝ

右一首大伴宿禰書持

平山手令丹黄葉手折来而今夜柿頭都落者雖落
ならやまをにてもちみぢぢたをりきてこよひのごとつもちかもちるとも

にてもちかもちるとも〻つれバとようかあらバちるとも〻よしといふ

右一首之手代人名　之一本三ハ他ニ武紀大侍御手代連麻呂ト
ヒトナ

露霜爾逢有黄葉手手折来而妹柿頭都後者落十方
つゆしもにあへるもみぢを　たをりきて　いもがかぶつ　のちハちるとも

ほなるとしよりといつをとあらう　家をも妹のを今夜コヨトあるとと　今と為し夜と

妹ヲ偽れるなるべしよりて

右一首秦許遍麻呂

十月鐘禮爾相有黄葉乃吹者將落風之隨

御ヲ郷ニ誤

かみなづきしぐれるあへるもみぢぢのふのぞちりなんかぜのまにまに

ぜゆゆのるのことをもまるはりんのんをとあるるるべし

右一首大伴宿禰池主

黄葉乃過麻久惜美思共遊今夜者不開毛有奴香
もみぢぢのすぎまくをしみおももあそぶこよひハあけずもあるぬか

さきくハなをとんとりまくあるぬのハあれのうとりつくとも

右一首内舍人大伴宿禰家持

以前冬十月十七日集於右大臣橘卿之舊宅宴飲也

大伴坂上郎女竹田庄作歌二首　此ヨリ家持至姑坂上郎女竹田庄作歌ニ

然不有五百代小田乎苅亂田廬爾居者京師所念
しかあらぬいほよのをかりらんたいほにをれば　みやこしぬ

半立志可宝[illegible]ひげかきたで〜〜[illegible]

て〜田づせとれば〜いつへかく、宮もハ然ハ黙の任まて、[illegible]

[illegible]

為二一歩ゝゝ、後七十二歩為十代、百四十歩為二十代ゝゝ、五十代為一段とあり、

田づせ半十六寸の後は、田虫者多夫世也とて、田のゝ世ゝのゝ[illegible]

隱口乃、始瀬山者、色附奴、鐘禮乃雨者、零爾家良思毋

こもりくの、をつせのやまハいろづきぬ、しぐれのあめハ、ふりにけらしも

右天平十一年己卯秋九月作

佛前唱歌一首

思具禮能雨、無間莫零、紅爾、丹保敝流山之、落巻惜毛

しぐれのあめ、まなくな[illegible]ふりそ、くれなゐに、にほへるやまの、ちらまくをしも

敝ヲ敝ニ誤

右冬十月皇后宮之維摩講、終日供養大唐高麗等種種音樂、爾乃唱此詞、彈琴者市原王、忍坂王、後賜姓大原真人、赤麻呂也、歌子者田口朝臣家守、河邊朝臣東人、置始連長谷等十數人也　皇后宮ハ光明皇后ゝ、後紀天應元年九月授位忍坂王従五位下ゝゝ

大伴宿禰像見歌一首

秋芽子乃、枝毛十尾二、降露乃、消者雖消、色出目八方

あきはぎの、えだもとをゝに、ふるつゆの、けなばけぬとも、いろにいでめやも

上ハ法ゝいゝん序ゝて命の[illegible]人は[illegible]ゝ[illegible]

大伴宿禰家持到娘子門作歌一首

妹家之門田乎見跡、打出来之、情毛知久、照月夜鴨

いもの、いへの、かどゝをみんとゝ、うちでこゝろも、しるくてるつくよかも

たちくいちだるくふはぬ、はるとなんあるをとだちたいそぎて月よつ田を
ろんるしひるすてさてつ田をとろんとも月をいそぐく月の照らせるく

大伴宿禰家持秋歌三首

秋野爾開流秋芽子秋風爾靡流上爾秋露置有

あきのぬにさけるあきはぎあきかぜのなびくるうへにあきのつゆおき

とめて枝ごとにそなへて一の折へ

棹牡鹿之朝立野邊乃秋芽子爾玉跡見左右置有白露

さをしかのあさたつのべのあきはぎにたまとみるまでおけるしらつゆ

狭尾牡鹿乃胸別爾可毛秋芽子乃散過鶏類盛可毛行流

さをしかのむなわけにかもあきはぎのちりすぎにけるいもがいぬる

きさきさうの年号和氣ゆゑん秋のさをしかの麻の御くつきらしなる

さをしかのおさ　のむのづく笠のうへにおくるうへ二枝よりこぼるる

右天平十五年癸未秋八月見物色作

内舎人石川朝臣廣成歌二首

妻戀爾鹿鳴山邊之秋芽子者露霜寒盛須疑由君

つまごひにかなくやまべのあきはぎハつゆしもさむみさかりすぎゆく

妻一秋ちかとてなくるぐ妻恋る鹿鳴山邊ハ露霜寒盛須疑由君

鹿なくの山べ　ちかとてなくれば　妻恋る鹿鳴山邊ハ露霜寒盛須疑由君

ちるれねバ　ちるるねやうるれど　ちるのちく山べのくよまんよりハ稽古ち

目頬布君之家有波奈須為寸穂出秋乃過良久惜毋

めづらくきみがいへなるはなすすきほのよづるあきのすぐらくをしも

神功紀神託の詞よ幡薄穂出吾也らく集中なるすすきハ一もの

ハタスキホニヅルワレヤ

なるもきもきもるいとも　奈ハ大の字の誤の彩撰万葉ハ花落とえ　ものち

るる字落ものいハ字ハ字の誤れまるハさしいるる　実ハ友のきとさ

郷ヲ卿ニ誤

てゝつるかるべし　さゝ波　ゆ　ふかと　ゆ　ふ　ゆ　ふ　ゆ　ふ

風乎谷戀者乎風乎谷將来常思待者何如將嘆

右二首柴野栗手載之[illegible]何香將嘆

弓削皇子御歌一首

秋芽子之上爾置有白露乃消可毛思奈萬思戀管不有者

あきはぎのうへにおきたる白つゆの消かもしなまし戀つゝあらずは

上ハ注ニ[illegible]

丹比真人歌一首　名闕

宇陀乃野之秋芽子師弩藝鳴鹿毛妻爾戀樂苦我者不益

うだのぬのあきはぎしなべなくしかもつまにこゝらくるしきわれは

[illegible]

[illegible]

丹生女王贈太宰帥大伴卿歌一首　柴口は女王の呼名

[illegible]

高圓之秋野上乃瞿麥之花下壯香見人之挿頭師瞿麥之花

たかまとのあきのぬのへのなでしこのはなしたをかみひとのかざしし

なでしこはなを

[illegible]

しらをゝ[illegible]

[illegible]

笠縫女王歌一首　目録ニハ六人部親王之女母曰田形皇女[illegible]

紐ヲ釵ニ誤

[illegible]の落[illegible]この皇女ハ天武の皇女

足日木乃山下響鳴鹿之事之可毋吾情都未

あしびきのやまたとよみなくしかのこゑとりめてわがこころづま

上ハとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

天皇賜報和御歌一首　聖武天皇

大乃浦之其長濱爾縁流浪寛公子念比日

おほのうらのそのながはまによるなみゆるけくきみをおもひしこのごろ

右海八千代為遠江国司之時作之

ゆさのうみやちよをかけてゆるけくのみおもふきみかもとをし

笠女郎贈大伴宿禰家持歌一首　特不本題之一有伝云政

母朝吾見屋戸乃瞿麥之花爾毛君波有許世奴香裳

あさごとにわがみるやどのなでしこのはなにもきみはありこせぬかも

右一首笠女郎

山口女王贈大伴宿禰家持歌一首　大伴

秋芽子爾置有露乃風吹而落涙者留不勝都毛

あきはぎにおきたるつゆのかぜふきておつるなみだはとどめかねつも

右一首

湯原王贈娘子歌一首　大伴

玉爾貫不令消賜良牟秋芽子乃宇禮和和良葉爾置有白

露

たまにぬきけぬたまらんあきはぎのうれわらばかりおくるしらつゆ

右一首娘子答之

大伴家持至姑坂上郎女竹田庄作歌一首

玉桙乃道者雖遠愛哉師妹乎相見爾出而曾吾来之

たまぼこのみちはとをけどかなしいもをあひみにいでてそわがこし

[illegible]

大伴坂上郎女和歌一首

荒玉之月立左右二来不益者夢西見乍思曽吾勢思

あらたまの月たちまでに来ずあらばゆめにみつつ思ひそわがせし

月ハ年月の月ヘ

右二首天平十一年己卯秋八月作

巫部麻蘇娘子歌一首

吾屋前乃芽子花咲有見来益今二日許有者將落

わがやどのはぎ花さきたりけるをみにきませいまふつかばかりあらばちるべし

老十三年ヒさ年ハ八月ニ日ナリ

大伴田村大嬢與坂上大嬢歌二首

吾屋戸乃秋之芽子開夕影爾今毛見師香妹之光儀乎

わがやどのあきのはぎさきゆふかげにいまもみてしかいもがすがたを

別嬢ハ坂上大嬢ヘ云ヘルノ心ナリ

吾屋戸爾黄変蝦手毎見妹乎懸管不戀日者無

わがやどにもみづるかへでみるごとにいもをかけてこひぬひもなし

無ハ毛ヲモトヨリ云ヘルヨシ知ルベシ　ハヒトヲ妹ノ御歌ヨリセルカ

[illegible]

坂上大娘秋稲蘊贈大伴宿禰家持歌一首　娘ハ嬢ト同ジ

吾之蒔有早田之穂立造有蘊曽見乍師弩波世吾背

わがまけるわさだのほだちつくりたるかつそみつつしのばせわがせ

蒔ハ業ヲ作ルヨリ出タレルヨシ知ベシ　ツクリタルカツソ　秋田の穂ヲトヨテイヒテ稔ヲイフ

大伴宿禰家持報贈歌一首

吾妹兒之業跡造有秋田早穂乃縫雖見不飽可聞

わぎもこがなりてつくれるあさのころもの[illegible]

[illegible]

又報脱著身衣贈家持歌一首　衣之半疑也[illegible]

秋風之寒比日下雨将服妹之形見跡可都毛思努播武

あきかぜのさむきこのごろしたくもりまきんいもがかたみとかつもしぬばむ

右三首天平十一年己卯秋九月往来

大伴宿禰家持攀非時藤花并芽子黄葉二物贈坂上大嬢歌二首

吾屋戸之非時藤之目頻布今毛見牡鹿妹之咲容乎

わがやどのときじきふじのめづらくいまもみてしがいもがあたまを

[illegible]

吾屋前之芽子乃下葉者秋風毛未吹者如此曽毛美照

わがやどのはぎのしたばはあきかぜもいまだふかねばかくぞもみてる

[illegible]

きばく

右二首天平十二年庚辰夏六月往来

大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌一首并短歌

叩〻物乎念者　将言為便将為為便毛奈之妹與吾手携

いくたびものをおもへばいはむすべせむすべもなしいもとわれてを

拂而旦者　庭爾出立夕者　床打拂　白細乃

ゆゑ
袖指代而　佐寐之夜也常爾有家類足日木能山鳥許曽
そでさしかへてきねよやつねのあかけるあしびきのやまどりこそ
婆峯向爾嬬問為去　打蟬乃　人有我哉　如何為跡可
かをむとのひふまでひもとくつせみのひとなるられやなほもとの
一日一夜毛離居而　嘆戀良武　許已念者胸許曽
ひとひひとよもさのみてなげきこそもんこそんばむねこそ
痛其故爾　情奈具夜登　高圓乃　山爾毛野爾毋打
いたきそゆゑにこころなぐやと　たかのまとのやまにもぬまうち
行而　遊往杼　花耳　丹穂日手有者　毎見益而
ゆきてあそびゆけどはなのみにほひてあれば　みるごとまして
所思　太何為而忘物曽　戀云物乎
おもふ　いかにせばわすれむものぞ　こひといふものを

叩いかにくとたたあれどようきて　叩ハ字ある叩同也發也　るれば必語ある
なるべし　一ある町　ある光　語ある　ん叮の借字　叮嚀のこと　ねもころ
ふかなるべし　樊の下掛の字　一ある　なるをよしとよ　それ　者　やハやハ
ねもごろかたち　ねもごろ　ハ峯　むらひふハ　心　るの峯　隔て　位る　既る
おくてをんばをとをんばへ　そこゆゑ　ふ　それ　なるこ　野　糸の下　毎ハ母の借字
花の　四字　ものゝ　ひて　明　あるね　まして　けりて　こと

反歌

高圓之野邊乃容花面影爾所見乍妹者忘不勝裳
たかのまとのめべのかをばかをかげにみつつもハわもれかねつも

かを花　花ハ十口　みやの世門の　花ハ　みやどころの　べ　ところ　ふ　ぞ　ぞ
ほゝ　ゆ　ハ　樓　花なり　いそれ　き　かれ　ひ　ひ　ゆ　ゆ　ひ　下　せ　も

大伴宿禰家持贈安倍女郎歌一首

今造久邇能京爾秋夜乃長爾獨宿之苦左

いまつくる くにのみやこに あきのよの ながきをひとり ぬるぞくるしき

後紀天平十二年十二月戊午従聖武皇帝在前幸恭仁宮始作京都矣

丁卯皇帝在前幸恭仁宮始作京都矣

大伴宿禰家持従久邇京贈留寧樂宅坂上大娘歌一首

娘ハ嬢ノ字ナリ

足日木乃山邊爾居而秋風之日異吹者妹乎之曽念

あしひきの やまべにをりて あきかぜの ひにけにふけば いもをしぞおもふ

或者贈尼歌二首

ひとはけ

手毋須麻爾殖之芽子爾也還者雖見不飽情將盡

佐保ヲ保佐ニ誤

てもすまに うゑしはぎかも かへりては みれども あかぬ ごころつくさん

てもすまに　手毋須麻

はぎ　萩

かへりては　還者

あかぬ　不飽

ごころつくさん　情盡

衣手爾水澁付左右殖之田乎引板吾波倍真守有栗子

ころもでに みしぶつけ さうゑしの たをひきたれ われはへまもれる くりこ

水澁ハ水垢ノ引板ハひたいる用ヒ猪鹿ヲ追ふ

引板　ひたいる

栗子ハ佳字ナリ栗栖ナリ

尼作頭句并大伴宿禰家持所誂尼續末句等和歌一首

右或者ヨリ尼ニ誂テ二人ニ令ル続ル目録ヨリ等ノ字ヲ

誂　トシラフ

佐保河之水乎塞上而殖之田乎尼作苅早飯者獨奈流倍思家持續

さらがえのみづをせきあげてうゑつくるたつたいはひとうるるべし
佐保とも佐保作とも佐保とも佐保作とも佐保作とも佐保作

太宰帥大伴卿冬日見雪憶京歌一首

沫雪保杼呂保杼呂爾零敷者平城京師所念可聞

あさゆきのほどろほどろにふりしけばなほいやしけにおもほゆるかも

右一首[illegible]

太宰帥大伴卿梅歌一首

吾岳爾盛開有梅花遺有雪乎亂鶴鴨

わがをかにさきたるうめのちるゆきをまがへつるかも

右一首[illegible]

角朝臣廣辨雪梅歌一首　雄略紀小鹿火宿禰後紀小弓宿禰喪柔

時獨留角国云々是以大連為奏於天皇使留居于角国是角臣等初居角国而名角臣自此始也云々辨曰孫也云々辨名也

灼ヲ炙ニ讀

沫雪爾所落開有梅花君之許遣者與曽倍氏年可聞

あはゆきにしるくさきたるうめのはなきみがもとやらばよそへてんかも

右一首[illegible]

安倍朝臣奥道雪歌一首　後紀宝亀五年従四位下[illegible]卒云々

棚霧合雪毛零奴可梅花不開之代爾曽倍而谷將見

たなぎりあはゆきもふるかうめのはなさかざるかはりにそへてだにみん

棚[illegible]

[illegible]

若櫻部朝臣君足雪歌一首　履中紀三年長真膳連女姓と稚櫻部造と殺[illegible]

天霧之雪毛零奴可灼然此五柴爾零巻乎將見

あまぎりしゆきもふるかいちじるくこのいつばかりにふるまきをみん

[illegible]

五柴原とよるゝ同じく楢宮に、始て設る法なり、古もふようて改つ、

[illegible]

三野連石守梅歌一首　後紀延暦九年陰陽助正六位上路三野真人石守言ゞ父馬養姓無路字、而今石守猶著路字、請除之許焉と云ゆ、

かぐねのうへるはなづの

引攀而折者可落梅花袖爾古寸入津染者雖染

ひきよぢて折らば落らむ梅花袖に古すいれつゝそまばそむとも

ときれハ神よりぎこのるべき年十八のもとゝ[illegible]さそ[illegible]の白まくゆべし、そもゝ[illegible]

[illegible]

巨勢朝臣宿奈麻呂雪歌一首

吾屋前之冬木乃上爾零雪乎梅花香常打見都流香裳

わがやどのふゆきのうへにまがふゆきをうめのはなかとうちみつるかも

冬木の梅とよるを

冬木ハその梅をいふ、[illegible]

小治田朝臣東麻呂雪歌一首

夜干玉乃今夜之雪爾率所沾名将開朝爾消者惜家牟

ぬばたまのこよひのゆきにぬれなゝあけなばきえなばをしけん

めれるハぬれんと

忌部首黒麻呂雪歌一首

梅花枝爾可散登見方右二風雨亂而雪曽落久類

うめのはなえにちるとみるまでに[illegible]

枝に[illegible]

紀少鹿女郎梅歌一首

十二月雨者沫雪零跡不知可毛梅花開含不有而
[illegible]

[illegible]（阿和由岐）其弱如氷沫[illegible]和名抄云日本紀云沫雪[illegible]

大伴宿禰家持雪梅歌一首

今日零之雪雨競而我屋前之冬木梅者花開二家里
けふふるゆきはあれにまさりてわがやどのこのうめがえはさきにけるかも

御在西池邊肆宴歌一首　後紀天平十年秋七月癸酉天皇御大
藏省覽相撲晩頭御西池宮宴[illegible]

池邊乃松之末葉爾零雪者五百重零敷明日左倍毛將見
いけのべのまつのうらばにふるゆきはいほへふりしけあすさへもみむ

右一首作者未詳但賢子阿倍朝臣蟲麻呂傳誦之

大伴坂上郎女歌一首

沫雪乃比日續而如此落者梅始花散香過南
あわゆきのこのごろつぎてかくしふればうめのはなちりかすかもなん

池田廣津娘子梅歌一首

梅花折毛不折毛見都禮杼毋今夜能花爾尚不如家利
うめのはなをるをもをらもをもみつれどもこよひのはなにしかずけり

[illegible]

人の[illegible]

縣犬養娘子依梅發思歌一首

賢ヲ堅二誤

如今心乎常爾念有者先咲花乃地爾將落八方

いまのごとこころをつねにおもへらばまづさくはなのつちにふるべしや

[illegible]

[illegible]

大伴坂上郎女雪歌一首

松影乃浅茅之上乃白雪乎不令消將置言者可聞奈吉

まつかげのあさぢがうへのしらゆきをけぬべしとおくといはまくもなし

[illegible]

冬相聞

三國真人人足歌一首

高山之菅葉之努藝零雪之消跡可曰毛戀乃繁鶏鳩

たかやまのすがのはしのぬぎふるゆきのけぬとのいはもこひのしげきに

[illegible]

大伴坂上郎女歌一首

酒杯爾梅花浮念共飲而後者落去登毋與之

さかづきにうめのはなうけおもふどちのみてのちはちるとなりとも

[illegible]

和歌一首

官爾毛縦賜有今夜耳將飲酒可毛散許須奈由栄
つのをふもゆるもれまへまことよひのみのまんさけかもちりこすまゆらん
たたはいつるあ〻ゝ敷〻きこのひさをふるとくはゆるみのうん二の白まて
ちべ〻ゝ散ハ梅の花とりゝ〻ちるとこもれハ咲るを

右酒者官禁制備京中閭里不得集宴但親親一二飲樂
聽許者縁此和人作此贈句焉

藤原后奉　天皇御歌一首　后の上皇のうとなるを、不比等の女、
光明皇后と申せるを、天皇ハ聖武天皇を

吾背兒與二有見麻世波幾許香此零雪之懽有麻思
わのせこと二ふるゆきませハいくたくこのふるゆきのうれしまし

みませぬハいくたくあらせハ

池田廣津娘子歌一首

真木乃板上零置有雪乃敷布毛所念可聞佐夜問吾背
まきのいたへふりおけるゆきのしきたへもおもへかもさよとへわのせ
まきハ檜なり上ハ字〻とりなり序のみ　さハ夜なり　夜問へとりなり　これと此
注解なり〻ぬ　誤字なるべし

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

梅花令落冬風音耳聞之吾妹子見良久志吉裳
うめのはなちらしてあらしのおとのみきゝわぎもこみらくしよしも

上ハ序〻いくん序のみ

紀少鹿女郎歌一首

久方乃月夜乎清美梅花心開而吾念有公
ひさかたのつくよをきよみうめのはなこころひらけてさのもへるきみ

梅花ひらくに用とらくんなるのみ、この歌を八月の作きよるとくと歌ハかるまで

[illegible]

大伴田村大娘與妹坂上大娘歌一首

沫雪之可消物乎至今流經者妹爾相曽

あとゆきのけぬべきものをいまゝでふなるがらへめるかいもにあうんとぞ

はるのゝ[illegible]

ほのゝ[illegible]

大伴宿補家持歌一首

沫雪乃庭爾零敷寒夜乎手枕不纏一香聞將宿

あとゆきのふるにはにしきさむよをたまくらまのぞひとりかもねん

[illegible]

萬葉集巻第八

国立公文書館
National Archives of Japan